

Title	テインペーミン著書目録
Author(s)	南田, みどり
Citation	大阪外国語大学学報. 53 p.109-p.120
Issue Date	1981-10-30
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/80848">https://hdl.handle.net/11094/80848</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## テインペーミン著書目録

南 田 みどり

### The List of Books by Thein Pe Myint

Midori MINAMIDA

Last year I published the chronicle of Thein Pe Myint and put almost all his works in it. Here I would like to show the list of his books with short comments in order to study his works more systematically. I divided his books into seven items, they are A. travels, B. politics, C. education, D. literature, E. biography, F. novels and G. dramas. Among the each item books are arranged in order of date of publication.

This list shows that the number of the books on politics are larger than any other items. Although Thein Pe Myint loved and thought much of his novels, the number of them are less than that of politics. No matter how he thought, we can not disregard the fact that he spent most of his life for politics. His political life must also be studied in the future.

#### はじめに

これは「テインペーミン年譜」<sup>1)</sup>に続くテインペーミン研究資料である。年譜は、テインペーミンに関する事項と作品の関連を明確にすることを意図して、作品を主に執筆年代順に配列した。それら作品の多くが、執筆後新聞雑誌等の掲載を経て、単行本となった。作品によって、執筆から出版迄の期間や出版形態が異なる為、年譜では出版年を省略したものも多い。作品は、出版の段階で作者の手を離れ、広範な読者にゆだねられて独立した価値を持つに至る。ここでは、そうして出版されたテインペーミンの著書を、A. 紀行11点、B. 政治23点、C. 教育3点、D. 文芸評論6点、E. 伝記6点、F. 小説12点、G. 戯曲2点に分類し、簡単に説明する。この他、テインペーミンがインド滞在中の1940年代前半に、英文で書いた政治論文<sup>2)</sup>があるが、ビルマに現存しない模様で、出版社等も不明であるので省略した。又、初版とその後の版の出版社が異なる場合が多いが、出版社名は初版のみ記した。更に、小説や紀行に多いが、既に出版された小品が別の出版社から異なる組み合わせで新たに出版されたり、数巻に分けて出版された長編が、後に別の出版社から一冊にまとめられて出版される等で、作品名が重複する場合、代表的な版を一項目とし、解説の中でそれらの事情を記した。なお、書名の邦訳で、年譜と相違する点は注に記した。

テインペーミンの著書目録は、既にMilneの‘Selected Short Stories of Thein Pe Myint’<sup>3)</sup>に載せられているが、これは不十分な面を持つ。第一に、これは1973年の出版である為、その後の著書9点が含まれない。第二に、1973年以前の著書のうち、かなりのものがぬけている。それらは本稿のB - 1, B - 5, B - 8, B - 9, B - 11, B - 12, B - 14, B - 15, B - 16, B - 17, B - 18, B - 19, B - 21, B - 22, B - 23, C - 1, C - 2, C - 3, D - 1, D - 3, D - 4, D - 5, F - 7の著書計23点である。特にBの政治関係に脱落が多いのは、パンフレットのものが多く、見過ごされた為であろう。

ジャンル別年代別に著書を整理すると、以下のようになる。

	A	B	C	D	E	F	G
1930年代		4点			1点	3点	
1940年代		5				1	2点
1950年代	2点	7			1	2	
1960年代	5	5	1点	4点	1	4	
1970年代	3	2	2	1	3	2	

Aの紀行は、新聞雑誌に連載後出版されたものが多く、戦後より本格的に書きはじめられ、ほぼ間断なく書き続けられた。Bの政治は、それとは対象的に、早くも1930年代にはじまり、その政治活動を反映して1950年代を頂点として、1970年の2点を最後に姿を消す。Cの教育、Dの文芸評論は、過去に発表したものをまとめたものである。Eの伝記では、1970年代の3点がすべて自伝となっていることが特徴的である。Gの戯曲は、大戦前後に書かれた多くのシナリオの技術が生かされているものであるが、2点のみにとどまり発展しなかった。文学者テインペーミンの名声の根拠となるFの小説は、Bとスタートをほぼ同じくするが、点数ではBに及ばない。テインペーミンが最も愛したジャンルである小説よりも、彼が敗北を重ねた政治に関する書物の方が多く出版されているという事実に注目したい。政治家テインペーミンの評価は、いずれなされるべき課題の一つであろう。

(AからG迄各項目内の配列は、出版年の順とした。書名には、題の邦訳、原題、発音符号、出版年、出版地、出版社、頁数を続けて記した。)

#### A紀行

- 1 「さらば古き時代よ」 နေ ခု စေ ခု စေ ခု စေ ခု စေ : [ne yi? to. ki? haun:] 1952 Rangoon, Baho Sapay Press 316p. (1964 第2版)

1952年、メーデーでビルマ代表として訪中し、中国各地を見学して社会主義建設の息吹

にふれた印象を、新鮮な感動をこめて書く。

- 2 「戦時の旅人」 စစ်အတွင်း ခရီး သွင်း [si? ə twin: k'ə yi: dhe] 1953 Rangoon, Shumawa Press 324p. (但し上巻のみ。下巻を1963年,「連合軍とビルマの使節」の題で出版し, これらを1冊にまとめて「戦時の旅人」の題で, 1966年1974年に出版)

「戦時の旅人」は1950年10月から52年8月迄,「連合軍とビルマの使節」は1953年2月から55年5月迄Shumawa 誌に連載。前者には, 1942年から43年, 作者が日本軍政下のラングーンを脱出, インド亡命中中国重慶を訪問する迄, 後者には, 1943年から46年, 作者がインド共産党の影響を受けつつ抗日工作に従事し, ビルマ共産党書記長に任じられて帰国する迄が, 回想される。

- 3 「友好の旅人」 ချစ်ကြည် ရေး ခရီး သွင်း [ci? ci ye: k'ə yi: dhe] 1962 Rangoon, Shwe-pyitan Press 147p.

1961年, 東京で開催されたアジアアフリカ作家会議に, ビルマ作家協会副会長として出席し, その前後にベトナム民主共和国 (当時), タイ, 香港, 中国等に立ち寄り, それらの印象をまとめたもの。

- 4 「西方へ送り出し東方を向いて待つ」<sup>4)</sup> အနောက်ကို ရွှေ့ဘက် ပါလိုအ ရွှေ့ကို မြေ နှလုံးက ခင် [ə nau? ko shau? pa lo. ə she. go m'yo lai? yin] 1962 Rangoon, Gyobu Sapay Press 267p. (1967第2版)

1961年9月から62年1月迄Boutahtaung 紙連載。1961年9月, アメリカ政府招待の出版活動視察団の一員として, カラチ, バイルート, ロンドンを経てアメリカ大陸を横断し, ホノルル, マニラ, 香港を経て帰国した旅行記。題名は, ビルマの作者の家族は, 作者を西方へ送り出し, 東方を向いて帰国を待つことを意味するが, テインパーミンがアメリカ政府の招待を受けることに関する賛否両論が, 当時の政治活動家の間に生じただけに意味深長である。

- 5 「人民の中に真実を求めて」 ပြည်သူ့ကြွေး မှတ်အမှန် ရှာ [pyi dhu. ja: m'a ə m'an sha] 1964 Rangoon, Pagan Press 486p. (1975第2版)

新聞雑誌に連載したビルマ国内紀行等のうち以下の作品が収められる。

- ① 「楽しき宮殿は戻らじ」(Thwethauk 誌1953年9月54年3月)
- ② 「メルギーの貝の中の真珠」(同上1954年8月—55年5月)
- ③ 「北へ帰る」(同上1955年7月—56年12月)
- ④ 「敗北の中の微笑」<sup>5)</sup> (1964年)
- ⑤ 「革命政権下のブダリンをゆく」(Boutahtaung 紙1962年12月)
- ⑥ 「学ぶ旅人」(同上1963年12月—64年1月)

尚⑤ 1編のみが「ブダリンエッセイ集」ဘုတ်လင် ဆေးခင်း ပါး မှတ်: [bu. də lin s'aun: ba: mya:] 1963 Rangoon, Revolutionary Government Handbook 30p. としても出版。

又③④2編が「北へ帰る」အသွင်ပြန် [ə ña pyan] 1970 Rangoon, Amandhit Sapay Press 153p. としても出版。

更に④1編は「選挙の体験」<sup>6)</sup> ရွေးကောက်ပွဲအတွေ့အကြုံ [ywe: kau? pwe: ə twe ə coun] 年不詳 Mandalay, Yuwati Press 49p. としても出版。

「北」とは、作者の故郷ブダリンのある中部ビルマをさす。1956年の総選挙で国会議員テインペーミンの選出基盤となった。

- 6 「ぼんやりしたパリと平和の旅人」ဝိုး တဝါး ပါရီနှင့်ငြိမ်းချမ်းရေးခရီးသွင် [wo: də wa: pa ri n'e ñein: jan: ye: k'ə yi: dhe] 1965 Rangoon, Seintin Press 248p.

1957年、英国議会視察議員団の一員として訪英した体験を「平和の旅人」に、その帰途5日間のパリ観光を「ぼんやりしたパリ」に収める。前者はPyidawsoe 紙に、後者はKyimon 紙に連載されたというが、年月日不詳。

- 7 「私の出合った世界」ကျွန်တေ့တို့ဘုံ: သေတံတိုက် [cun daw coun bu: dhaw gə ba] 1967 Rangoon, Sabagyi Press 560p.

A - 1, A - 2, A - 3, A - 4, A - 6の各著書からの抜粋である。

- 8 「チン丘陵の歴史のはじまり」ဝိသေသတိုင်းသမိုင်းအစ [wi. the the tain: the main: ə sa.] 1967 Rangoon, Sapay Beikman Press 334p.

世界各国を訪れたテインペーミンでさえ末踏の地チン州へ、1966年2月招かれ訪れた記録。1967年度民族文学賞<sup>7)</sup>一般の部第一位受賞。1966年3月18日から6月26日迄Boutahtaung 紙連載。

- 9 「イラワジ上流色とりどりに」<sup>8)</sup> မြစ်ဖျား ဇရဘရောင်စုံဖြူ [myi? p'ya: e ya yaun zoun p'ya] 1973 Rangoon, Chindwin Press 396p.

1970年12月「文学者の日」<sup>9)</sup>の催しで、カチン州を旅行した時の紀行。1970年12月23日から71年3月19日迄Boutahtaung 紙連載。

- 10 「東北地方の一角」အရှေ့မြောက်တိုင်းတစ်ခု [ə she. myau? tain: tə k'win] 1973 Rangoon, Aleinma Sapay Press 223p.

1972年12月、いわゆる黄金の三角地帯を含むシャン州を旅行した時の紀行。1972年12月28日から73年1月19日迄Boutahtaung 紙連載。

- 11 「我等のモンビルマ」ကျွန်တေ့တို့မွန်မြန်မာ [cun daw do. mun myan ma] 1975 Rangoon, Jalayan Sapay Press 384p.

1974年1月、人民評議会選挙実施委員としてモン州へ派遣された時の紀行。

## B政治

- 1 「当面の我等の任務」လက်ငင်း တို့တဝန် [le? gin: do. ta wun] 1938 Rangoon, Nagani Press 20p.

マルクスレーニン主義の書物を読み、論議を尽くして当面の任務を明確化することを勧める小冊子。

- 2 「印緬紛争」 ကလဲ: ဝ မာတိုက်ပွဲ [kə la: bə ma tai? pwe:] 1938 Rangoon, Nagani Press 24p.

1938年7月発生の反インド人暴動の根源が、単に宗教問題のみならず、インド人資本家のビルマ人搾取にあるとする。1938年9月10月の2ヶ月間に11版を重ね、10万部を出版。B-22にも収録。

- 3 「人民権力とフランス革命」 ပြည်သူ့အာဏာနှင့် ပြင်သစ်အရေး တော်ပုံ [pyi dhu. a na n'e. pyin dhi? ə ye: daw boun] 1938年 Rangoon, Nagani Press  
 テインペーミンの著書として出版されたが、序文のみ執筆。

- 4 「ヒットラーとチェンバレンいずれが悪いのか」 တစ်လတချိန်တလဲနိတယ်သူမှ: ယလဲ [hi? tə la c'ein ba lein bə dhu m'a; dhə lə:] 1939 Rangoon, Nagani Press 90p.

ヒットラーとチェンバレン共に悪いということを世界情勢との関連で説明する小冊子。

- 5 「ドイツは馬鹿なのか」 ဂျာမနီမှိုက်သလဲ: [ja mə ni mai? thə la: ] 1940 Rangoon, Khit Thit Press 160p.

ナチズムを爛熟腐敗した資本主義と規定し、ナチズム粉碎を主張する。

- 6 「What happened in Burma」 1943 Allahabad Kitabistan, 79p.

日本軍政下のビルマの情勢をインドで執筆し、エドガースノーの序をつけて出版。ウルドゥー、ヒンディー、グジャラティー諸語の他、タス通信記者によりロシア語にも訳された。

- 7 「当面の政治」 ခုလက်ငင်းနိင်ငံအရေး [k'u. lə? ɲin: nain ɲan ye: ] 1945 Rangoon, Aung Press

元ビルマ共産党議長タキン・タントウンとの往復書簡を含むというが、テインペーミン自身が紛失し、未発見である。

- 8 「世界の情勢」 နိင်ငံတကာအရေး အရပ် [nain ɲan də ga. ə ye: ə ya] 1945 Rangoon, Myanma Alin Press 47p.

1945年12月、ビルマ共産党中央委員会で、作者が党書記長として1945年7月から12月迄の世界情勢を報告した記録。

- 9 「一歩前進して」 ရှေ့တစ်လှမ်း [she. tə s'in. tɛ? ywɛ?] 1948 Rangoon, Kyawlin Press 54p.

ビルマ共産党発行のPyidhu Ana 紙、Tatni 誌からの抜粋で、当面のビルマの課題を論じる。

- 10 「新民主主義毛沢東の教え」<sup>10)</sup> ဒီမှိုက်ရေစိသစ် မေတ်စိတုံ: ချင်ပြော: ဒုက် မှာ:

ရေ: စဉ်း ဂုံ: ဆောင်ရွက်မှု [po ywe. ce pyan. la dho: gə ba. ñein: jan: ye: si:  
youn: s'aun ywe' m'u. ] 1951 Rangoon, Kyawlin Press 20p.

12 「社会主義と我等のビルマ」 ဘုံဝါဒ နှင့် နှိပ်စက်မှု [boun wa da. ne. do. be ma] 1954  
Rangoon, Pyidawsoe Press 192p. (1967年第3版)

- 18 「ネウイン将軍再登場」 ဝိုလ်ချုပ်ကြီး နေဝင်း လာပြန်ပြီ [bou? jou? ji: ne win: la pyan byi] 1962 Rangoon, Shwepyitan Press 66p.

1962年3月軍事クーデターにより、1958年に続いてネウイン軍政が発足したことについて、1962年3月Boutahtaung 紙に掲載した11の論説を集めたもの。

- 19 「交渉の内外」တွေ့ဆုံဆွေးနွေးရေး ဖော်ပြချက်များ [twe. s'oun s'we: nwe: ye: i. ə twin: ye: ə pyin ye: mya:] 1964 Rangoon, Aleinma Sapay Press 240p.

1963年9月におこなわれた政府共産党和平会談について、同年6月から12月迄Boutahtaung 紙に掲載した18の論説を集めたもの。

- 20 「毛沢東の中国とビルマの主権」 မေဝ်စီတုန်း တရုတ်နှင့်မြန်မာအချုပ်အခြာအာဏာ [mə si toun: tə you? n'ɛ myan ma. ə c'ou? ə c'a a na] 1967 Rangoon, Ayonoo Sapay Press 87p.

1967年6月華僑の子弟が毛バッチをつけラングーン市内を行進したことに端を発する反中国人暴動の、原因と経過を分析し、過去の中国ビルマ交渉の詳述から毛沢東主義批判にも言及し、10万部をえるベストセラーとなった。1967年7月Boutahtaung 紙連載。

- 21 「国内和平諮問委員会論文批判」<sup>15)</sup> ပြည်တွင်း ညီညွတ်ရေး အကြံပေး အဖွဲ့ဝင်တန်း အပေ၍ ဝေဖန်ချက် [pyi dwin: ñi ñu? ye: ə can pe: ə p'we. sa dan: ə pə we ban jɛ?] 1969 Rangoon, Hla Myo Press 54p.

1968年10月、政府が33人の政治家に政治上の助言を求め、提出された報告に関し、うち22人の意見を社会民主主義として批判する。

- 22 「1930年一帯のビルマ政治史」 တရုတ်တိုက်မြန်မာနိုင်ငံရေး သမိုင်း [tə t'aun ko: ya thoun: zɛ tə wai? myan ma nain ɲan ye: thə main:] 1970 Rangoon, Sein Sapay Press 112p.

1969年7月ラングーン大学での講演記録、1927年から37年に至るビルマ情勢を、世界恐慌との関連で論じる。

- 23 「帰り道のないウヌ」 ပြန်လမ်းမရှိသောဦးနု [pyan lan: mə shi. dhə: u: nu.] 1970 Rangoon, Padetharaza Press 46p.

私的怨恨でなく政治思想面でウヌを批判する。

## C教育

- 1 「大学紹介」 တက္ကသိုလ် မိတ်ဆက် [tɛ? kə tho mei? s'ɛ?] 1964 Rangoon, Kyonpyaw Press 232p.

1955年より Shumawa 誌大学紹介の頁に掲載した文から数学、物理学、化学、地質学、地理学、生物学、人類学を収録。



- 2 「選集 教育評論」စာပေဝါဒ: စုဝဉ်းစာပေ [sa baun: zu. pin ña ye:] 1971 Rangoon, Nantha Press 272p. (テインペーミン選集2)

1962年10月より70年10月迄Boutahtaung紙に掲載した教育評論50編を収録。

- 3 「青年学生問題」ကျော့စာပေ: သာသနာ့လူငယ်ပြဿနာများ [caun: dha: lu ñe pya? the na mya:] 1971 Rangoon, Ayezanbu Sapay Press 528p.

1970年11月Boutahtaung紙掲載の7評論を収録。

## D 文芸評論

- 1 「ビルマ文学の諸問題」မြန်မာစာပေအတွေးအမြင်များ [myan ma sa pe o t'we dwe pya? the na] 1966 Rangoon, Oukkala Sapay Press 271p.

過去に発表した43編を収録。

- 2 「論争された評論」တိုက်ပွဲဝင်စာများ [tai? pwe: win sa mya:] 1968 Rangoon, Min Hswe Press 581p. (1974第2版)

D - 1 をも含む105編を収録。

- 3 「出版評議会とボウタタウンの論争」စာနယ်ဇင်း: ကော့စီနီဒီဂျင်ကော့စီတိုက်ပွဲ [sa ne zin kaun si n'ē. bou? tē t'aun tai? pwe:] 1963 Rangoon Myanmabyuha Press 110p. 共著

1963年5月6日Boutahtaung紙連載の「社会主義出版界をめざし奮闘しているボウタウン」収録。

- 4 「私の小説中の人物達」ကျန်းသိက္ခာများ: ထဲမှကျန်းသိက္ခာတစ်ဆောင်များ [cə nō. wu? t'u mya: dē: m'a. cə nō. za? s'aun mya:] 1969 Rangoon, Nantha Press 63p.

1969年5月ラングーン大学ビルマ文学協会主催の講演会における講演記録。「進歩僧」はじめ長編小説7編について解説。

- 5 「選集 文芸評論」စာပေဝါဒ: စာပေဝေဖန်ရေး [sa baun: zu. sa pe we ban ye:] 1971 Rangoon, Sein Sapay Press 300p. (テインペーミン選集1)

D - 1, D - 2 と重複する22編を収録。

- 6 「文学討論会」စာပေဆွေးနွေးပွဲ [sa pe s'we: nwe: bwe:] 1975 Rangoon, Jalayan Sapay Press 192p. (共著)

1974年、ラングーン市内での公開文学討論会で、読者からの13項目の質問に対してテインペーミンが解答した記録。後半は、作家ザワナの解答。

## E 伝記

- 1 タキンコドーフマインと呼ばれるサヤルン伝」သခင်ကိုယ်တော်မှိုင်း အမည်ခံဆရာတရား: အတ္ထုပ္ပတ္တိ [thə k'in ko do m'ain: ə mi gan s'ə ya lun: a? t'ou? pa? ti.]

- 2 「ストライキ学生」 သပိတ်မှောက်ကျောင့်စားသား [dhə bei? m'au? caun: dha:]  
1937 Rangoon, Htun Aye Press 322p. (ただし上巻)(1939年下巻 1961年上下2巻共  
再版, 1967年 1970年1冊になって出版)  
1936年のラングーン大学学生ストライキをルポルタージュ風に小説化した。1970年版は、  
ラングーン大学創立50周年記念として出版。
- 3 「現代の悪霊」 ဝက်ခေတ်နတ်သိုး [tɛ? k'i? na? s'o:] 1938 Rangoon, Myanma Alin  
Press 228p. (その後出版年不詳で版を重ね, 1972年第6版)  
青少年に流行していた性病を撲滅することを目的とした青春小説。
- 4 「開けゆく道」 ဝမ်းစပ်ပွား [lan: za. po byi] 1949 Rangoon, 出版社不詳 (同年第  
2版, 1963 第3版)  
反ファシスト人民自由連盟の中心であった社会党共産党の対立を背景に, 若い社会党員  
共産党員の男女の愛と闘争を描く。
- 5 「愛すればこそ」 ချစ်စရာတရား [ci? ywe. k'o ya] 1952 Rangoon, Shumawa Press  
218p. (1978 第2版)  
映画のシナリオであったものを1951年から小説化する。若い娘と中年女性の間を揺れ動  
く青年の恋愛小説。第2版の序「真実の愛正しい愛に関して」が遺稿となった。
- 6 「東より陽の昇るがごとく」 အရှေ့မှတက်လာသော နေရောင်ခြည် [ə she. ga. ne wun: t'we?  
tɛ. pə ma] 1958 Rangoon, Kyawlin Press 上巻下巻計1192p. (1966年69年71年74年に  
も出版)  
1953年 6月から57年10月迄 Myawaddy 誌連載。1958年サペベイマン賞長編小説部門で  
1000チャット賞受賞。1936年から42年迄のビルマ独立闘争を背景に成長する一青年を描  
く。
- 7 「泥の中の蓮」 နီရင်းပွင့် [nun d'ɛ: ga. ca] 1962 Rangoon, Shumawa Press 590p.  
(1972再版)  
ミヤタンテインと共著となっているが, テインパーミンがトルストイの「復活」を翻案  
したシナリオを, ミヤタンテインが小説化したもので, 序文のみテインパーミン執筆。
- 8 「テインパーミン短編小説選集」 သိန်းစုံလေးစုံတို့၏ ပြောဆိုချက် [thein: p'e myin.  
wu? t'u. do baun: jou?] 1966 Rangoon, Pagan Press 678p. (1968再版)  
①「私の夫と私の金」(1934) ②「立法院議員殿」(1935) ③「戦士」(1935) ④「自由」  
(1936) ⑤「ある夜の出来事」(1936) ⑥「マーリー」(1938) ⑦「石油」(1938) ⑧「嘆き  
の歌」(1938) ⑨「独立すれば」<sup>16)</sup>(1948) ⑩「母」(1948) ⑪「すべて異常ありません」(1949)  
⑫「苦い甘さ」(1949) ⑬「裏切り者だとは」(1949) ⑭「第三流の場所」(1951) ⑮「櫓の  
折れた漕ぎ手ゴエセイン」(1954) ⑯「不合理なことよ」(1954) ⑰「完全浄化」(1954) ⑱  
「シントウマナ」(1958) ⑲「老教師の問題」(1959) ⑳「ダバウン月の影響と老教師の間

1938 Rangoon, Gyobyu Press 284p. (1953年, 1964年, 1974年にも出版)

タキンコドーフマインの誕生から1936年迄の伝記 (1936年4月から36年3月迄Deedoke紙連載の「ミスターマウンフマインことサヤルン教授」)に、ディードウバチョウのタキンコドーフマイン論を加えたもの。1964年以降の版には、タキンコドーフマインの死に関して、テインペーミンがBoutahtaung紙に掲載した3編を加えている。

- 2 「俳優ウボセイン」 ဇာတ်ဝရံ ဦး ဇိး စိန် [za? s'ə ya u: p'o: sein] 1952 Rangoon, Ahman Sapay Press 108p.

1952年2月から5月迄Myanma Alin 紙に連載したウボセインの伝記に、ウボセインが使用した歌の一部を収録。

- 3 「チョーニエイン」 ဇာတ်ဝရံ ဦး [cə ñein:] 1961 Rangoon, Shwepyitan Press 167p. (1961 再版, 1969第3版)

1960年Boutahtaung紙に連載した、政敵で友人でもあるチョーニエインとの交流記。チョーニエイン自身の序がある。

- 4 「ある銀婚式」 တခု ယေဘု ဇွေ ဂုတုယတ ဇိ [tə k'u. dhə: ɣwe yə du. dhə bin] 1973 Rangoon, Sapay Beikman Press 178p.

1971年11月のテインペーミン夫妻銀婚式の風景にはじまり、結婚当時から25年間の回想、家庭観等を記する。1972年執筆。

- 5 「私の初恋」 ဣန် တေ ဝါဒ် အချစ် ဦး [cun do i. ə c'i? u:] 1974 Rangoon, Yeelay Press 322p. (副題「文学的生涯1」)

生いたちから1933年19才の頃迄を回想。他に初期の短編小説「愛国者キン」「勇士ソーケン」「慕情渦の如く」(以上1933年)、長編小説「女傑」(1934年)を収録。

- 6 「進歩的現代人テッポンジーテインペー」 တိ ခေတ်တိလူတိကုန်း ဦး သိန်း ဇေ [tə? k'i? tē? lu tē? p'oun: ji: thein: p'e] 1975 Rangoon, Thanlwin Press 460p. (副題「文学的生涯2」)

E-5に続き、1934年から1937年迄を回想。他に短編小説「ミンとトウインの幼い頃」「信じられること」「あんた方の夫」(以上1935年)「恐妻家」「レディキン」(以上1936年)を収録。

## F小説

- 1 「進歩僧」 တိကုန်း ဦး [tē? p'oun: ji:] 1936 Rangoon, Htun Win Press 224p.

仏教界の退廃を批判して一部僧侶の強い反対を受けるが、1万部以上を売る。1937年版に、ウヌの但し書きをつけるが、僧侶の出版停止を要求するデモ攻撃を受け、再版しないことを約束する。1954年版に僧侶の序文をつけたが、政府の出版禁止令を受ける。1968年4版を出す。テインペーミンの作品中最も有名かつ物議をかもした書。

題」(1964) ㉑「日没時の愛」(1965) ㉒「その彼女とバラスィートゥ」(1964) ㉓「ティッサことセイネツ」(1966) ㉔合法的放蕩者」(1966) 以上24編が収録され、ウヌが1937年1952年に書いた序文もつけられる。なおテインペーミンの短編小説集は既にこれ以前に、以下のものが出版されている。

「立法院議員殿」မင်းတိုင်ဝင်း [min: tain bin] 1937, ①②③ 収録。

「戦士」စစ်သမားစော [si? dhe do] 出版年不詳 ③⑪ 収録。

「すべて異常ありません他短編選集」အဘိုးလုံးကောင်းပါတယ်ခင်ဗျား နှင့်လက်ရွေးစင်ဝတ္ထုများ [a: loun: kaun: ba de k'ə mya: n'ε. le? ywe: zin wu? t'u. do mya:] 1952, ①③⑦⑧⑨⑪⑫⑬⑭ 収録。

「櫓の折れた漕ぎてゴエsein, 写実小説」ငှစိန်ရွှေရွှေငယ်တက်ကူးခြင်း၊ ဘဝသရုပ်ဖော်ဝတ္ထု [gwe sein l'e l'ə yin: tε? co: jin: | bə wa. the you? p'ə wu? t'u.] 1962, ⑮⑯⑰⑱ 収録。

「選集 短編小説集」စာပေါင်းစုံ၊ ဝတ္ထုများ [sa baun: zu. | wu? t'u. do mya:] 1971, ①から⑫迄収録。(テインペーミン選集3)

- 9 「ティーターピョン」သီတာပျို [thi ta pyoun: ] 1968 Rangoon, Aung Thuriya Sapay Press 507p. (1970 再版)

1967年10月から68年11月迄Boutahtaung 紙連載。1968年民族文学賞長編小説部門で第4位受賞。15年前に書いたシナリオの小説化。美女ティーターピョンの数奇な生い立ちと、3人の男性との愛をミステリー風に仕立てる。従来の長編の作風に似つかわしくないことで賛否両論を受ける。

- 10 「海の旅人と真珠姫」အရှင်ဝါဒီရိုးသစ်နှင့်ပုလဲဒေဝီ [ən nə wa k'ə yi: dhe n'ε. pə le: de wi] 1969 Rangoon, Aung Thuriya Sapay Press 502p. (1971 再版1974第4版) 1969年4月迄Boutahtaung紙連載。テインペーミンが参加した海洋調査旅行を題材とした海洋旅行小説。大学ビルマ文学科、3.4年必読文献に指定されている。

- 11 「彼等夫婦の34年」သုတိုလင်မယား ၃၄ နှစ် [thu do. lin mə ya: thoun: zε le: n'i?] 1977 Rangoon, Sapay Beikman Press 202p.

1976年執筆。テインペーミン一家に仕える女中夫婦の歩みを描く随想風私小説。

- 12 「60才を過ぎて書いた小説」ငါ့ကျော်မှရေးသောဝတ္ထုများ [c'au? s'ε co m'a. ye: dhə: wu? t'u. mya: ] 1978 Rangoon, Chindwin Press 223p.

①「美よ今日はお前に会えなかったのか」(1976) ②「翼ある花」(1976) ③「青龍木が黄金に濡れる時」(1977) ④「坐る場所を一つ見つけて」(1977) ⑤「老夫婦より生まれいづる愛」(1977) 等の随想風私小説を収録し、テインペーミンの死後出版された。

G戯曲

- 1 「時代は変わる」 ခေတ်သစ်သန်းဖြူ [k'i? thi? s'an: byi] 1945 Aung Press 78p.  
1944年、インドで執筆し上演された 'Over the Ashes' a Play about resurgent Burma 1945 People's Publishing House のビルマ語訳。ファシスト日本軍の蛮行の中で抗日に目覚めるビルマ人民を描く。「珠寶4編」 ဂန္ဓဝင်လေးဆူဝ် [ganda. win le: ou?] 1965 Rangoon, Hnalonghla Press p167—241にも収録。
- 2 「ミュージカル金の雨銀の雨」<sup>17)</sup> ရွှေမိုး၊ ငွေမိုး၊ ခဲလင်း၊ ခဲလင်း၊ ပြတိုက်မိုး၊ နှင်းဆီမိုး၊ မိုး၊ [shwe mo: gwe mo: | bē: la: ye: dhə bin | pya. gwē? mya: n'ē. dhə c'in: mya:] 1948 Rangoon, ラングーンビルマ映画演劇協会。  
1948年1月4日の独立記念式典で上演。ビルマの平和と繁栄をたたえる作品というが、作者自身が未発見。

注

- 1) 拙稿「テインペーミン年譜」大阪外国語大学学報第五十号1980年, p.23—40
- 2) それらは 'Towards better mutual understanding and greater Co-operation between British and the People of Burma' (1944) 'From Fascism to Free' 'Between India and China' (1945) 等であり、執筆当時の事情についてはA-2の書物に詳しい。
- 3) Patricia M. Milne 'Selected Short Stories of Thein Pe Myint' Translated with Introduction and Commentary, Cornell Univ. Ithaca New York, June 1973, p.14-17
- 4) 年譜p.34では「東を眺めつつ西へ行く」とした。
- 5) 「敗北の中の微笑」は選挙体験を内容としたものである。年譜p.35では紀行ではなく評論の項目に入れている。
- 6) 年譜には記載していない。
- 7) 年譜p.38ではサベベイマン賞となっているが、1948年発足したサベベイマン賞は、1965年より民族文学賞として装いを新たにした。
- 8) 年譜には記載していない。
- 9) 毎年ビルマ暦9番目の月の白分第一日(太陽暦11月末から12月初め)。文学講演会等の催しを、ラングーン初め全国各地でおこなう。
- 10) 年譜p.30では「毛沢東の教え」とした。
- 11) 年譜p.31では「さらに広範な世界平和の統一行動」とした。
- 12) 年譜p.31では世界平和協議会副議長とした。
- 13) 年譜p.32では「革命時代の体験」とした。
- 14) 年譜p.33では「政府不信声明」とした。
- 15) 年譜p.38では「国内和平助言委員会」とした。
- 16) 年譜には記載していない。
- 17) 年譜には記載していない。

以上